

1. 基本情報	
留学先大学	ウィーン応用芸術大学出願理由
協定留学プログラム	1セメスター
留学期間	2025 年 2 月～2025 年 6 月
名前	W・J さん
学部・学科・専攻	大学院 デザイン・ヒーリング研究領域
留学した時の学年	3年次

2. 渡航前手続きについて(留学ビザ)	
ビザの種類	Students Visa
申請先	オーストリア大使館
ビザ取得所要日数 (申請してから何日/週要したか)	3 週間
ビザ取得費用	20euro (日本円 3200 円)大体
必要書類	パスポート、英文残高証明書、英文海外両行保険証書、住民票、ホテル、飛行機、保険、留学先学校の入学証明書、女子美術大学の在学証明書
具体的な申し込み手順を、以下へ明記お願いします。	
VFS Global のウェブサイトです約します。 必要書類の確認と最終準備、書類を提出します。 VFS サービス料を支払います。 足りない書類は email でやりとりします。	
ビザ取得の際に、留学先国大使館で面接があった方は、どのような質問を受けましたか。	
収入源について聞かれました。	
ビザ取得に関して困った点・注意点について、以下へ明記お願いします。	
保険証の日付は、在留期間全体をカバーするように。	

2. 渡航について	
利用航空会社	Turkish Airline
航空券手配方法	Google flight
大学の最寄り空港名	Vienna International Airport
現地到着時刻	午前 8 時
キャンパスへの移動手段	Taxi
移動所要時間	約 30 分間

空港からキャンパスへの移動の際の注意点などありましたら、以下へ明記をお願いします。	
エクスプレスに乗る必要はありません。高くて、早くないです。	
渡航前に済ませておくべき準備などありましたら、以下へ明記をお願いします。	
3. 住居について	
住居タイプ	アパート
到着後すぐに居住入居できましたか？	はい
部屋のタイプ	1人部屋
住居を探した方法	大学からの案内
住居申し込み方法	housingAnywhere ウェブサイトより申し込み
1カ月の宿舎費（現地通貨）	1200 euro
注意点やアドバイスがあれば、以下へ明記をお願いします。	
早く申し込まないとやすい寮がすぐ無くなります。	

4. 留学先オリエンテーションについて	
オリエンテーション有無	ありました
日程	2025 年 2 月 26 日
参加必須ですか？	はい

5. 授業について	
履修登録はいつどのような形で行いましたか？	到着前にオンラインで
履修 科目・単位数は？	5 科目 10 単位
ボリューム的にどうでしたか？	最初は忙しかった

6. 履修科目詳細 ※履修した授業すべて記載してください。	
履修学科名	Social Design
①履修科目コース名	Focus Week (Love chair)
授業時間	8時間
授業回数(週)	集中授業 10日ぐらい
単位数	2

授業内容・課題・試験について	LOVE CHAIRS The chair — once a symbol of authority, reserved for kings and priests — has become an everyday object for all. From the Middle Ages onwards, this object of power gradually made its way into the lives of the masses, evolving through industrialization into countless stylistic and functional forms to meet individual needs. Over time, it has transformed from a symbol of status to something ubiquitous. Yet, today, it could be argued that the chair also serves as a tool of control, gluing us to our office desks, depriving our bodies of movement, and isolating us. We will do the opposite. Imagine a world where the chair is a tool for connection, not isolation — a tool that encourages engagement, rather than retreat. Our material? The remnants of a consumer culture long gone. We'll gather old, discarded chairs from vintage stores and transform them into interactive collages that bring people together. With an assortment of materials like cardboard, wood scraps, etc., we'll breathe new life into these old objects, transforming them into Love Chairs. Chairs that invite movement, conversation, and connection — because it's time we stop sitting quietly. Next Steps: Sketch, Sketch, Sketch: Join Jakob in the SD studio on March 18th at 2 PM and also sketch on your own. Join the Assembly Tour: Explore vintage chairs and materials with Peter Sandbichler on March 19th at 2:00 PM, and visit flea markets on your own. Next Step - Model Building: Start building a scale model to refine your idea. Gather Chairs & Materials: In coordination with Peter & Jakob. Focus Week - AMOUR PERDU (March 24th-28th): Create your Love Chair. 愛の椅子 かつて王や聖職者のために用意された権威の象徴であった椅子は、今や私たち皆にとって日常的な存在となりました。中世以降、この権力の象徴は、産業化を経て個々のニーズを満たす無数の様式や機能へと進化しながら、徐々に大衆の生活に入り込んできました。 時が経つにつれ、それは地位の象徴から遍在するものへと変貌しました。しかし今日、椅子は私たちをオフィスデスクに縛り付け、体の動きを奪い、孤立させる「制御の道具」としても機能していると言えるかもしれません。 私たちはその逆を行います。椅子が孤立ではなく繋がりのための道具、引きこもりではなく関わりを促す道具となる世界を想像してみてください。 私たちの材料は何でしょうか？ それは、もはや存在しない消費文化の残骸です。私た
-----------------------	---

	ちは古い、捨てられた椅子をヴィンテージストアから集め、それらを人々を結びつけるインタラクティブなコラージュへと変身させます。段ボールや木材の端材など、様々な素材を使ってこれらの古いオブジェクトに新しい命を吹き込み、「ラブ・チェア」へと生まれ変わらせます。 動き、会話、そして繋がりを促す椅子たち——なぜなら、私たちは静かに座っているのをやめる時だからです。 ● スケッチ、スケッチ、スケッチ：3月18日午後2時にSDスタジオでヤコブと一緒にスケッチしたり、自分でもスケッチしたりしましょう。 ● アセンブリーツアーに参加：3月19日午後2時にペーター・サンドビヒラーと一緒にヴィンテージチェアや素材を探したり、自分でもフリーマーケットを訪れたりしましょう。 ● 次のステップ - モデル制作：アイデアを洗練させるために、縮尺モデルの制作を始めましょう。 ● 椅子と素材を集める：ペーターとヤコブと調整しながら行います。 ● フォーカスウィーク - AMOUR PERDU (3月24日～28日)：あなたのラブ・チェアを制作します。
成果物の写真 2点以上を張り付けてください。	

履修学科名	Site Specific Art
②履修科目コース名	BRILLANT DILETTANT (Impro)
授業時間	3 時間
授業回数(週)	9
単位数	2

授業内容・課題・試験について	‘Dilletant does not mean ‘not being able to do something’, but rather ‘not wanting to do something’. (Thomas Meinecke) It still echoing. The ‘Festival Genialer Dilletanten’, from 1981 in Berlin. Back then, an artistic vehemence characterised by cross-genre experimentation and the use of new electronic devices was developing, particularly around art academies. Somehow, music made its way onto the canvas. The aim of the course is to create a kind of musical structure with the available stuff. To find solutions by chance, or to arrive at a concept through improvisation, or to cover an existing piece of music with the available possibilities. Giving way to the ego, to collective authorship. The urge to do is stronger than the search for perfection. Questioning the ‘right’ and giving space to the wrong. And then confront the public with it. The course will be roughly divided into four sections, with the main focus on the REHEARSALS, the practical work. exploring the ‘skills’ of the course participants exploring the possibilities (equipment) REHEARSALS public performance (Angewandte Festival 2025 / at Paulusplatz) Previous musical knowledge is an advantage, also having your own instruments or other devices. 「ディレッタントとは、『何かをできないこと』ではなく、『何かをしたくないこと』である。」(トーマス・マイネッケ) この言葉は今も響き渡ります。1981 年ベルリンで開催された「天才的ディレッタントの祭典」。当時、特に美術アカデミーを中心に、ジャンルを超えた実験と新しい電子機器の使用によって特徴づけられる芸術的な激しさが発展していました。まるで、音楽がキャンバスの上に現れたかのようです。 このコースの目的は、手元にある素材を使って、一種の音楽的構造を作り出すことです。偶然から解決策を見つけたり、即興を通してコンセプトに辿り着いたり、既存の音楽作品を手持ちの可能性でカバーしたりします。エゴを手放し、集団的な創作に身を委ねる。完璧を追求するよりも、「やりたい」という衝動が勝る。「正しい」ものに疑問を呈し、「間違い」に居場所を与える。そして、それを大衆に提示するのです。 コースは大きく 4 つのセクションに分かれ、主な焦点はリハーサル、つまり実践的な作業に置かれます。 コース参加者の「スキル」を探索する 可能性(機材)を探索する リハーサル 一般公開パフォーマンス(Angewandte Festival 2025 / パウルスプラッツにて) これまでの音楽的知識があれば有利ですが、ご自身の楽器やその他の機材をお持ちいただくことも歓迎します。
-----------------------	--

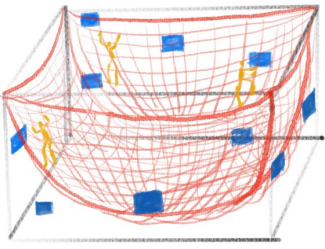
成果物の写真
2点以上を張り付けて
ください。



③履修科目コース名	Kitchenless House
授業時間	1.5時間
授業回数(週)	11
単位数	2
授業内容・課題・試験について	The course, a further development of the course of the same name from 2023, is once again dedicated to historical, feminist housing projects whose unifying element is the utopia of an equal, empathetic and caring coexistence. What can we learn from them and what relevance do they have for our present and future? Can we as artists change historical narratives or fill in the gaps? This time, a special focus will be on the publication 'Making Space: Women and the Man-Made Environment' (1983) by the London-based feminist architecture collective Matrix. Collective reading, city walks, visits to exhibitions and archives, guest lectures 平等で共感的、かつ配慮ある共存というユートピアを統一要素とする、歴史的なフェミニストによる住宅プロジェクトに再び焦点を当てます。私たちはそこから何を学び、それらが現在そして未来においてどのような関連性を持つのでしょうか？アーティストとして、私たちは歴史的な物語を変えたり、その空白を埋めたりすることができるのでしょうか？今回は、ロンドンを拠点とするフェミニスト建築コレクティブ「マトリックス」による出版物**『Making Space: Women and the Man-Made Environment』(1983年)**に特に焦点を当てます。 ● 共同での読書 ● シティウォーク ● 展覧会やアーカイブの訪問 ● ゲスト講演

成果物の写真 2点以上を張り付けてください。		
④履修科目コース名	What's going on?	
授業時間	3 時間	
授業回数(週)	11	
単位数	2	
授業内容・課題・試験について	What's going on? More Faces, More Places What defines the character of a city, what gives it its face? Architecture, parks, infrastructure, institutions, as well as the city's population, its communities, its nightlife, its cultural facilities... Art is ever-present in the urban context, more so than we often realise. While certain artworks and art spaces are firmly anchored in collective awareness, others go almost unnoticed, like hidden little gems. In weekly tours through the city, we gain insight into Vienna's art scene, discover various art venues, and sharpen our perception of how our surroundings are designed. The course takes us to exhibitions, project spaces, and studios, where we encounter different organisational structures and engage in conversations with various protagonists. On our collective explorations through the city, we discover public art – urban designs, memorials, art on buildings, and temporary interventions. 都市の性格を定義し、その「顔」を作り出すものは何でしょうか？それは建築、公園、インフラ、公共施設、そして都市の住民、コミュニティ、ナイトライフ、文化施設などです。アートは都市の文脈において常に存在しており、私たちが気づいている以上にそこかしこにあります。特定のアート作品やアートスペースが集合的な意識にしっかりと根付いている一方で、まるで隠された小さな宝石のように、ほとんど気づかれずに存在するアートもあります。 毎週行われる市内ツアーでは、ウィーンのアートシーンを深く知り、様々なアート会場を発見し、私たちの周囲がどのようにデザインされているかという認識を研ぎ澄まします。このコースでは、展覧会、プロジェクトスペース、スタジオを訪れ、多様な組織構造に触れ、様々な主役たちと対話を行います。都市を巡る共同探求の中で、私たちはパブリックアート、すなわち都市デザイン、記念碑、建築物のアート、そして一時的な介入作品を発見します。	

成果物の写真 2点以上を張り付けてください。		
⑤履修科目コース名	Artistic Strategies:Open Space	
授業時間	3 時間	
授業回数(週)	6	
単位数	2	
授業内容・課題・試験 について	Open Space is a course dedicated to long-term students' individual projects. Operating as a transdisciplinary platform focusing on the group members' projects and work, the course aims at supporting students with the development and the implementation of artistic strategies based on the specifics of their personal projects. As a group, we collectively investigate relevant artistic strategies contributing to the development and finalization of each participants' project. The working method is based on interdisciplinary and transversal approach, responding to the challenges of artistic production both conceptually and technically. Students share regularly the development of their projects. At least, one presentation of one work per semester is required. Open Space は、長期履修学生の個人プロジェクトに特化したコースです。このコースは、グループメンバーのプロジェクトと作品に焦点を当てた超分野的なプラットフォームとして機能し、学生がそれぞれの個人的なプロジェクトの特性に基づいた芸術的戦略の開発と実施をサポートすることを目的としています。グループとして、私たちは関連する芸術的戦略を共同で探求し、各参加者のプロジェクトの開発と完成に貢献します。 作業方法は、学際的かつ横断的なアプローチに基づいており、芸術制作の概念的および技術的な課題に対応します。 学生は定期的にプロジェクトの進捗を共有します。学期ごとに少なくとも 1 つの作品発表が求められます。	

成果物の写真 2点以上を張り付けてください。		アイディア Performance 1. Artist teach tying the knot with a red rope 2. Artist playing string figures with audience 3. Give the red rope as a gift, so they can play the game with others 4. Screens with videos on play, eg science tutorial, breaking news of the world trendy short videos, etc.
-----------------------------------	---	--

7. 現地情報

(1)パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか？

【回答例】 キャンパス内では大学の Wi-Fi を問題なく使用できました。キャンパス外では地方に行かない限り使用できました。

キャンパス内では大学の Wi-Fi を問題なく使用できました。

(2)現地で携帯電話、スマートフォンの利用手続きはどのようにしましたか？

【回答例】 SIM カードを渡航前に Amazon で購入しました。

現地で service shop というお店がいっぱいあって、短期間の SIM を買った、毎月店に行行って現金で払えなければなりません。1が月10euro で十分でした。

(3)現地での支払い方法はどのようにしていましたか？

【回答例】 主にクレジットカード払い

クレジット80%、現金20%ぐらい

(4)現地で現金での支払いが必要な時はありましたか？

【回答例】 はい、友達との食事代支払いの時に使用しました。

あります。やすいお店、マーケット、友達との食事代支払いの時も

(5)現地での資金調達はどうに行いましたか？

【回答例】 ①クレジットカードを使用して ATM で現金を調達しました。

②日本から現金を持って行ったので必要ありませんでした。

①クレジットカードを使用して ATM で現金を調達しました。

(6)日本から現地通貨の現金を持って行かれましたか？ はいの場合、いくら位持っていられましたか？

【回答例】 はい、£1,000位

はい、300euro

(7)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

【回答例】 日本の調味料

文房具

8. 留学体験記

(1)留学しようと決めた理由は？

ヨーロッパの芸術文化を体験したいと思います。

(2)留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備はありましたか？

基本的なドイツ語、ちょっとわかったら助かると思います。

(3)この協定大学を選んだ理由は？

住みやすいまちは世界第一と聞きました。芸術や歴史や豊か、地理的にも中心。

(4)大学・学生の雰囲気はどんな感じでしたか？

先生でも学生でも。自由、平等です！でも自己責任です。

(5)交友関係についてお聞かせください。

留学生が少なく、オーストリア人やドイツ人が80%以上。ドイツ語がメインですから、ちょっと英語国より寂しい。自分の趣味があれば学校の外でも友達ができる。

(6)困ったこと、大変だったことがあればお聞かせください。

冬は寒くて、乾くので、最初は体が慣れないかも。
学校のカフェはそんなに美味しくない。自炊でも食材の種類がすくない。

(7)現地での学習内容・勉強についてお聞かせください。

演劇祭の会場プロジェクト「ラブ・チェア」は、委託されたというよりも、公共空間デザインプロジェクトに近いものでした。先生方もかなりのプレッシャーを感じて進捗を急かし、より多くの人の参加を促しているようでした。

一番気に入ったのは、街の郊外にあるリサイクル倉庫へ使える素材を集めに行ったことです。授業では元々先生が私たちが街の古物市場に連れて行ってくれる予定だったのですが、ある学生が「お母さんの彼氏が古物収集倉庫のオーナーなので、すぐに倉庫を見に行けるよう手配してくれる」と言い出し、急遽行くことになりました。到着すると皆、大興奮。本当に、ものすごく広い倉庫に、ものすごくたくさんのガラクタがありました。素材を目にすると、さらにインスピレーションが刺激され、学生も先生も一緒に宝探しをしたり、実験したり、議論したりしました。特に可能性のある素材については、先生に次回トラックで運び戻してもらうよう手配しました。

学費がほとんどかからないため、多くの学生は修業年限を延長することを選びます。そのため、何年生であるかはあまり気にせず、卒業を考えている人がプロジェクトの論文を指導教員に申請するという状況です。彼らの専門課程では、修士の2学年が混ざって授業を受け、プロジェクトを行います。卒業する学生はプロジェクトを整理して展示する必要があり、論文も求められます。特にユニークな要件は、プロジェクトを2～3人のグループで行う必要があることです。セミナーでは、インクルーシブ・シティに関するいくつかのプロジェクト計画も耳にしました。例えば、あるグループはコミュニティ交流のプラットフォームや拠点として機能する移動式サウナを制作する計画を立てていたり、別のグループはドナウ川沿いの移動に不自由な高齢者と一緒に、彼らがドナウ川の景色をより楽しめる公共空間をどうデザインするかを考えていたりしました。

(8)海外生活の中で気がついたことなどあればお聞かせください。

1

交通がとてもスムーズで、外出するのに全然大変じゃありません。ウィーンは交通年間パス制度を採用していて、一年 365 ユーロで市内のすべての交通機関が乗り放題です。学生はもっと安いですが、だから駅に入るときも電車に乗るときもカードを通す機械がありません。市内での移動はほとんど 30 分以内で、交通機関では大体座席を見つけることができます。毎日出かけるとき、あらかじめ路線を計画する必要がなく、友達と急に約束することも簡単で、東京よりずっと便利です。

2

社会デザインや公共アート授業で、公共空間で行われるアート作品をたくさん見ました。どこでも見られる落書きや彫刻だけでなく、例えばドナウ運河の公共水域でのレジュー活動に広がるプロジェクトなど、異なるグループがみんな楽しめるべきだと主張しています。一方では、ヨーロッパの都市には公共空間がたくさんあり、もう一方では、人々が公共空間を使う公平で平等な権利への意識がとても高いです。

3

ウィーン市、そしてオーストリア国家政府の芸術文化への支援はとても大きいです。毎年、一ヶ月以上続く大型の様々な芸術祭、音楽祭、ダンス祭、映画祭、演劇祭が次々と開催され、しかも価格がとても安く、質の高い無料公演もたくさんあります。芸術を学ぶ学生にも作品を発表する機会がたくさんあり、在学中も学校が校外の協力リソースを提供してプロジェクトを行えます。

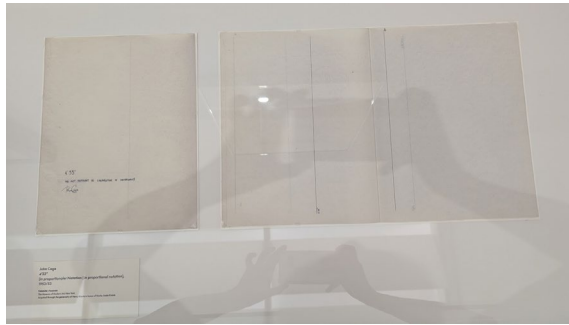
4

先生は前から言っていました。「本当に心を動かされる作品を見つけなさい」と。でも、そんな作品はとても少ないと思います。面白い、新しい、賢い、刺激的だと感じる作品はたくさんあります。でも現代アートはいろいろな形がありすぎて、もし作家を知っていて、その人の創作体験を知っていれば、もっと心を動かされるでしょう。そうでなければ、現代アートより映画や演劇の方がずっと感動的です。

きっと物語だけが私の論理的思考を止めさせるからでしょう。現代アート作品を見ると、無意識に「これをどう理解すればいいのか」と反応してしまいます。すると論理が出てきて、分析が始まります。その中で「なぜ理解できないのか」とか「私には絶対にこんな作品は思いつかないし作れない」というエゴが混じってきます。そうになると、もう感覚を探すのは遅すぎます。

面白いことに、自分の専門分野ではないときの方が、エゴを捨てて即興の状態になれることがわかりました。即興の練習をするとき、バンドで即興キーボード伴奏をするときはできます。でも観客がいる演奏で、誰かが見ていることがわかると、エゴが強くなってしまいます。エゴを捨てて感覚に沿っていく状態を探したいと思います。

(9)海外生活の中で印象深いこと(風景、人、モノなど)を写真で紹介してください。4 点以上



--John Cage【4' 33"】

東洋人として長らく西洋芸術への盲目的崇拜を抱き、「理解できない」のは自分の問題だと思っていた。しかしジョン・ケージらが東洋の「空」「寂」概念をいかに借用したかを知ったとき、彼らの理解は表面的で、新たなフォルマリズムの理論的装飾に過ぎないと気づいた。

ウィーンでの生活体験により、西洋人の東洋文化への関心は禅やヨガブームの中でも消費レベルに留まることが多いと実感した。この文化受容の非対称性から悟った——現代アートは本質的に西洋固有の文化文脈の産物であり、私の「理解不能」は無知ではなく文化的差異だったのだ。この認識は解放感をもたらし、異なる芸術伝統を平等に審視し、自分の文化的基盤で独立した芸術判断を構築できるようになった。真の芸術的価値は人間の存在体験に誠実に応答しているかどうかにある。



『The Brotherhood』は、とても議論を呼んでいる「Cadela Força」三部作の第二部です。

テーマと内容:

父権制の構造:アート界に隠れている男性の特権と排除の仕組みを明らかにする

性暴力の正常化:男性同盟がどうやって女性への暴力を促進し、維持しているかを分析する

偽りの進歩主義:アート界の表面的な進歩主義が隠れている男性中心主義を批判し、「天才」を作る祭りを暴く

男性同盟と兄弟会:「兄弟の絆」の形成メカニズムと規則を探り、「兄弟の絆」がどこにでもあること、女性主義のコミュニティの中にさえあることを明らかにする

この演劇では、観客は女性が性と暴力の主導者として現れることに向き合わされ、明らかに落ち着かない気持ちになります。しかし現実の状況は残酷で想像を絶するものののに、選択的に避けられています。まさにそのために、監督は過激な方法で戦うことに挑戦しているのです。



人間性の脆さと暴力。

あるダンス公演で、舞台は中央に建てられた三層の簡易的な鉄筋と木の板でできた構造でした。観客は入場して舞台の周りに自由に座り、入場時にはすでに 1 人の女性と 2 人の男性の 3 人のダンサーが、それぞれ約 5 平方メートルの各階で激しく踊り始めていました。熱くなるにつれて衣服を脱いでいき、パフォーマンスが本格的に始まったように見えました。

全体を通して、彼らはそれぞれ自分のスペースで非常に力強く踊り、もがくような動きを見せ、床を激しく叩くような暴力的な動作を多く行いました。



学校の教育管理はとても自由で民主的です、各クラスから学生代表を選んで、みんなの権利と責任について定期的に会議で話し合います。

授業では学生がちょっと自由すぎてだらしないこともあります。学生も先生も、10 分以上遅刻するのが当たり前だと思っている方もいます。屋外で授業をするときは、学生たちは講義を聞きながらタバコを吸っていました。